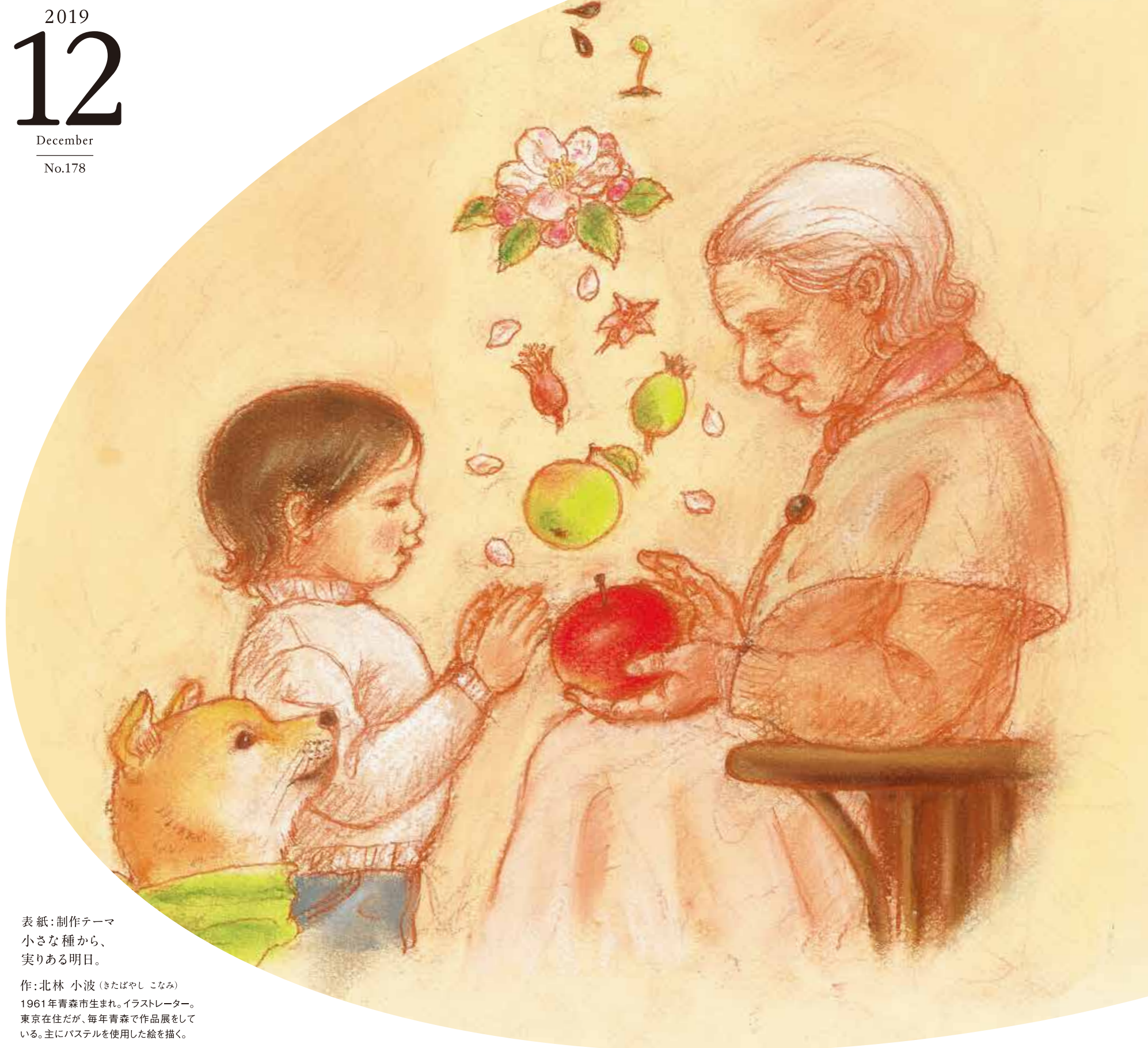


県民だより

あおもり

青森県広報広聴課公式 Facebook
 青森県広報広聴課
 青森県広報広聴課公式 Twitter
 @aomorist
 青森県広報広聴課公式 Instagram
 県民だよりあおもり

2019
12
 December
 No.178



表紙：制作テーマ
 小さな種から、
 実りある明日。

作：北林 小波（きたばやし こなみ）
 1961年青森市生まれ。イラストレーター。
 東京在住だが、毎年青森で作品展をして
 いる。主にパステルを使用した絵を描く。

CONTENTS／目次

【特集】
**住み慣れた地域で、
 支え合い、共に生きる** ▶P2

【連載】
 地域から魅力発信！
 「ハッピー♡リレー」〈西北地域〉/
 地域の旬食材レシピ ▶P6

青森の未来に全力！県職員最前線レポート
 「地域の外から継続的に関わる『関係人口』を増やしたい！」/
 青森県職員の給与と職員数のあらし／
 「青森で就職したい」を応援します！/
 持続可能な未来を創るために
 「未来のAomoriシンポジウム」を開催します！ ▶P7

申吾のほっとコラム/
 あおもりインフォメーション ▶P8

医療の進歩や健康意識の向上などによって、人生100年時代の到来、ということが言われるようになってきています。

一方で、日本は、2025年には1947年から1949年生まれといわゆる団塊の世代の方々が全て75歳以上となります。これまでに経験したことのない超高齢化時代を迎え、交通・買物・食事など高齢者の日常生活の維持・確保が大きな課題です。

県では、超高齢化時代の到来を見据え、誰もが住み慣れた地域の中で居場所や生きがいを持ち、安心して暮らせる環境づくりに向けて、市町村など関係機関と連携しながら、地域主体の取組を進めています。

大切なのは、住民の方々と地域における様々な団体が主体的によく話し合い、自分たちに何ができるのかをしっかりと考え、行動していくことです。

実際に、県内各地で、住民や各種団体が中心となった様々な取り組みが動き始めています。

「つながり」や「助け合い」の環を広げ、私たち一人ひとりの力を合わせ、持続可能な地域づくりをめざしていきましょう。

**住み慣れた地域で、
 支え合い、共に生きる**



Vol. 4



利用者の声

- ・話ができたくさん笑って悩みも解決!
- ・友達ができうれしい
- ・おしゃべりができる
- ・昔からの趣味を仲間と楽しむことができる

こんな効果も

- ・頭と体を動かして介護予防になる
- ・健康チェックで自分の健康に関心が持てるようになる

集うことで地域がつながる

- ・ご近所さんの互助の推進
- ・多世代交流のきっかけづくり
- ・元気な高齢者が増える
- ・定年退職後、地域で役割ができる

「つどいの場」には
ほんないいことが!

特集

住み慣れた地域で、支え合い、共に生きる

地域のこと、は自分のこと。 今から「地域」ではじめよう。

「個人の困った」は、「地域の困った」

本県の人口の約30%が65歳以上となる中、皆さんの地域でも、買い物など普段の生活の中での「困りごと」が多くなってきたのではないだろうか。

これは、決して高齢者だけの問題ではなく、若い世代も地域全体の課題として考えなければなりません。

そのため、私たち一人ひとりが「自分のこと」としてとらえ、地域で「支え合う」関係づくりが必要です。

社会参加は一人ではできない まずは「つどいの場」づくりを

一番に取り組むことは、元気な高齢者にいつまでも元気でいてもらうこと。健康長寿の3つの柱は、「身体活動」「栄養」「社会参加」です。そのために効果的なのは高齢者の「つどいの場」。みんなが集う場に出かけることで自然に体を動かし、このことが、介護予防につながります。食事や栄養のことを話すことで食生活を見直す機会に。また、外出や、会話、趣味やゲームをすることは認知症予防に効果があるとも言わ

れています。

大事なのは、みんなが集う場へ継続して通ってもらうこと。高齢者が、そこへ楽しみを見だし、誰かにやらされるのではなく、主体的に関わっていただける場所があること。やりがいや生きがいを感じ、健康的な生活を送ることで、結果的に元気な高齢者が増え、医療や介護にかかる費用が軽減される効果も期待できます。また、通院・買い物などの住民主体による生活支援サービスなどができれば、より暮らしやすさは増していきます。

地域の支え合いを育むことが あらゆる世代の幸せにつながる

将来的に、このような集いの場が学童保育などと連携し、高齢者が子育て世代を支えたり、障害者が集いの場の運営サポートができる仕組みをつくるなど、「支え手」「受け手」という関係を超えた地域コミュニティづくりにつながることを期待されます。

時には支え、時には支えられる。そんな地域社会を、今から自分たちの手で築いていきましょう。

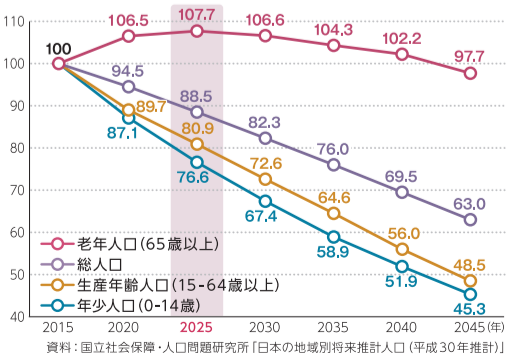
2025年問題とは

「団塊の世代」が全て75歳以上の後期高齢者となり、我が国がこれまでに経験したことのない超高齢化時代を迎えることにより生じる、社会保障をはじめとした様々な課題

青森県型地域共生社会とは

地域で生まれ、地域で育ち、地域を助け、地域で安心して老後を迎えることができる社会

青森県の人口推移(推計) ※2015年を100とした場合の推移





きむら りゅうじ
特集 監修 木村 隆次さん

青森県薬剤師会会長
青森県介護支援専門員協会副会長
日本介護支援専門員協会の初代会長、
社会保障審議会介護保険部会委員を
歴任。介護保険の「伝道師」として活躍中。

専門アドバイザーを派遣！
～生活支援サービス拡充深化事業～

各市町村で「つどいの場」を立ち上げるための勉強会などにアドバイザーを派遣します。市町村高齢福祉担当課または県高齢福祉保険課へお問い合わせください。

「近所の近助」、まずはここからはじめよう！

つどいの場 づくり

はじめてみよう！

つどいの場づくりは、
簡単に始められます！



STEP
1

地域で利用できる 場所を探そう

児童館や集会所、公民館・廃校になった学校、幼稚園や保育園・お寺・マンションの空き部屋・食堂・福祉館・社会福祉法人所有のフリースペースなど。

STEP
2

鍵当番を 決めよう

会場の鍵は、その日、開けられる人を当番で。開ける人と締める人が違っててもOK。



STEP
3

集会日を 決めよう

曜日は変えず、「毎週〇曜日」は、集う日」が覚えやすい。介護予防の効果をあげるためには、体操などは週1回以上が望ましい。

12月						
日	月	火	水	木	金	
1	2	3	4	5	6	
8	9	10	11	12	13	
15	16	17	18	19		
	24	25				

STEP
4

行きたくなる 仕掛けづくりを

メニューは決めず、やりたいことを！
「今日はこれ！」とメニューを決めると無理強いする形となり、楽しさが半減。その日、何をするかは本人が決めるのがリピーターを増やすコツ。おしゃべり、将棋、囲碁、麻雀、ダーツ、けん玉、パズル、塗り絵、写経、カラオケ、ゲームなど。

例えば まずは、おしゃべりから。ゲームなどは家にあるものを持ち寄りましょう！「メニューが多い＝手間がかかる」ではありません。

互いに健康チェック、運動する機会も！
身長・体重測定や握力を鍛えたり。定期的に役所や地域包括支援センターの力を借りて、転倒防止体操や健康講座を開く。

例えば ペットボトルのふたを開けるのに必要な握力は15kg以上。日頃からそういったことを意識した体操や運動を。ゲームは認知症予防に効果的！



生きがい づくり

高齢者は地域の貴重な支え手！
様々な場面で活躍できる仕組みづくりを。

得意分野で活動できる機会をつくる

例 野菜や畑作り、漬物づくり、書道、花、着付け、裁縫、将棋、麻雀、絵描きなど

高齢者が子育てをサポート

例 学童保育などとの連携も期待できる。地域の話や昔ながらの郷土食を伝授する機会にも

STEP
5

「グランドルール」 を決めよう

「人の悪口を言わない、ゲームなど強制・無理強いはしない、物品販売は行わない」など最低限のルールをつくる。ルールを壁に張り出すのもポイント。





《外ヶ浜町》上小国地区

- 大学生との交流事業で田植えを実施
- 大学生や子どもたちと防災訓練を実施
- 週1回、「いきいき百歳体操」を実施



上小国いきいき地域づくり検討会
会長 小林 忠幸さん

2018年の同検討会発足時から現職。上小国自治会長。人口減少と高齢化が進む上小国地区において、関係機関と連携しながら地域の課題解決のための検討と取り組みを行っている。

上小国地区では、2008年に個人の農地を集約して農事組合法人「上小国ファーム」を設立し、米や野菜作りを行っています。地域のほとんどの方が関係する上小国ファームは、農業はもちろんのこと、地域の活動にも密接に関わっており、その取り組みが評価され、先日「豊かなむらづくり表彰事業（東北ブロック）」において農林水産大臣賞を受賞しました。

上小国自治会では、今後も高齢化が進むなか、地域で助け合い、支え合っていく仕組みづくりがますます必要だと考え、上小国ファーム、婦人会、消防団、子ども会の役員、町、県を構成員とした「上小国いきいき地域づくり検討会」を立ち上げました。活動内容としては今年5月に、大学生と地区住民の交流を目的に、県内外の大学生と一緒に田植えを

実施。9月にもお山参詣に合わせ、住民の防災意識も高めてもらおうと、大学生と一緒に防災訓練などを行いました。「サイギサイギ」の声を響かせながら上小国地区の岩木山神社を参詣した後、約80人が地区の会館に集まって交流会を開催。地区には20代の若者が少ないので住民も大喜びでした。

また、6月から週1回「いきいき百歳体操」を行っています。そういったなかで、婦人部から加工品作りを取り組みたいという声があがり、会館の調理室を改修し準備を進めています。地域には、笹餅やおこわ作りなど優れた技術を持つ高齢者も多いので、その技を継承するなど、みんなが交流できる場になればと思っています。

夢はどんなに広がり、今後は、交流サロンやしめ縄づくり、ホテルや星空の観望会なども検討中。取り組みを通じてみんなで助け合い、支え合える地域をめざしたいと思っています。

農業が育む地域のつながり
持続可能な集落を目指して

若者との交流などを通じて
みんなで支え合っていく

実施。9月にもお山参詣に合わせ、住民の防災意識も高めてもらおうと、大学生と一緒に防災訓練などを行いました。「サイギサイギ」の声を響かせながら上小国地区の岩木山神社を参詣した後、約80人が地区の会館に集まって交流会を開催。地区には20代の若者が少ないので住民も大喜びでした。



《南部町》剣吉地区

- 4つの町内会でサロンを開催
- 保健師による健康講座を開催
- 手芸、そば打ち、郷土料理作りを伝授
- お正月には町内会ごとに餅つきを開催
- 町内イベントには役割をもって参加



剣吉ストリート活性化委員会
委員長 出町 州央さん

南部町でデマチ呉服店を営むかたわら、地域活性化を目的に設立した「剣吉ストリート活性化委員会」のメンバーたちと地域の課題に取り組み、世代間交流等を企画・開催している。

4町内会にあるサロン
交流を通じて生きがいも

私たちは、剣吉商店会と商店街の活性化に取り組んできました。そんな中、剣吉商店会は、剣吉地区町内会や名久井農業高校、剣吉小学校、南部町商工会などの様々な団体と連携した取り組みが評価され、2016年、経済産業省の「はばたく商店街30選」に選ばれています。

こうした地域を元気にする活動を行うなか、剣吉地区の4町内会が行った住民アンケートを通じて、高齢者は外出の機会が減り地域との交流が少なくなっているという課題が浮かんできました。そこで、住民アンケートをもとに、剣吉地区の4つの町内会に高齢者が集えるサロンを設置。最初は、保健師による健康講座とおしゃべりを楽しむことからスタート。はじめのきっかけは私たちが行いましたが、今では民間の活動を通じて、さまざまな世代が支え合いながら暮らしている地域になればと願っています。

みんなでアイデアを出し、自主的に活動しています。各自の得意分野を生かし、住民が交替で「先生役」を務めながら、手芸やそば打ち、郷土料理などを作っています。出かける機会が増えたことで気持ちに張り合いができたという声も多く、地域全体の見守りにもつながっています。

今年の7月に開催した三世代参加型イベント「コードモト・夏・フェスティバル」では、地域の高齢者の方々にも役割を担ってもらいました。子どもに付き添ってきたお母さんたちも手伝ってくれてイベントは大盛況。住民それぞれがなんらかの役割を持ち、みんなで一緒に地域をつくるのが大事だと感じました。今後は、サロンの男性参加率アップが課題。サロンの活動を通じて、さまざまな世代が支え合いながら暮らしている地域になればと願っています。

“きつかけづくり”を支援
自主的な活動へと発展！

12月 特集関連番組 放送予定

放送局	番組名	放送日時
青森放送	大好き、青森県。	12月15日(日) 17:00~17:15
青森朝日放送	メッセージ	12月21日(土) 9:30~9:35



柿崎こうこの
ご近所の超お手本先輩

私が今住んでいるマンションの同じ階のおばあちゃん、Mさんのことです。5年前に私がここへ越してきて以来交流があり、このことは、少しこの街に根を下ろした感を与えてくれ、日々ありがたい気持ちです。Mさんが80歳を目前にして、長く暮らした都内の街から知り合いのいないこの街へ越してきたことは以前に聞いていました。高齢になってから居を移すことはそれなりの寂しさやストレスがあることは想像できますが…Mさんはタフ。会うごとに「今日は区の体操教室へ参加したの」とか、「ひと駅向こうのスーパーまでね。できるだけ歩かない」とか、近所におしゃべり仲間もいるよういつでも忙しそう。元々の気質もあると思いますが、外へ外へと出かける社交性やそれをするための健康を保つ意識も高い。風邪気味でしょんぼりした時でさえ発する言葉は前向きです。そんなMさんは、東京でひとりのマンション住まい、今後も独り身が大いにありうる私の“超”お手本！です。



柿崎 こうこイラストレーター。青森生まれ。食をはじめ、旅、美容、健康などライフスタイルをテーマとしたイラストが人気。雑誌、広告、書籍などを中心に活躍中。
柿崎こうこHP「ビューティセブン」/ https://www.kakizakikoko.com
kakizaki_koko_illustration kakizaki_koko

特集に関する問い合わせ先

2・3ページに関すること／高齢福祉保険課 ☎017-734-9340
4・5ページに関すること／地域活力振興課 ☎017-734-9075
健康福祉政策課 ☎017-734-9277
青森県基本計画に関すること／企画調整課 ☎017-734-9129

中泊町 中里・武田・内瀨・小泊地区

高齢者の見守りも兼ねて、
生鮮品・日用品を宅配

高齢農家の農産物の集荷作業を発展させた宅配＆見守りをしてくれる買い物支援システム。会員登録後、カタログ注文すると各戸へ配達。現在、移動販売システムも実証中。



深浦町

高齢者サロンで
生きがいと健康づくり

高齢者以外も自由に参加可能。週1回2時間程度、町内全域33箇所の集会所で開催。スポーツレジャーと保健師の連携により、健康チェックや運動、ゲーム、レクリエーション、お茶会などを実施。



五所川原市 七和地区

地域との協働により実現した移動販売や
地域交流の場となるカフェを実施

中心部まで買い物に出かけることが困難な方のため、地域と大学、生協、病院、企業が連携して移動販売を実施。また、毎月第2・第4金曜日には、コミュニティカフェを営業。



三戸町

いきいきリーダーが率先して企画
体力づくり・仲間づくり・地域づくり

いきいき百歳体操による「通いの場」づくりを展開。いきいきリーダーによる「通いの場」立ち上げを保健師やハビリ専門職が支援し、全町21地区に拡大。各地区で毎週1回開催。



三沢市 細谷地区

地域住民ボランティアによる
介護予防と生きがいづくり活動

町内会長と町内在住の健康運動指導士など若手住民との連携によって、週1回ペースで集会所を拠点に介護予防、栄養・運動教室、創作活動などを行う「細谷おらほの寺子屋」を実施。



南部町

農業分野での
高齢者の生きがいづくり

昨年度は、女性農業者が企画した地域資源を活用した大豆収穫体験や味噌づくり体験に地域の高齢者が参加。今年度は、昨年度つくった味噌を持ち寄り、味噌の切り返しを行いながら交流を実施。



青森市 松森町会

町会サロンで高齢者の居場所づくり
日曜除く毎日開放

毎日11時～14時開放。決められたプログラムはなく、おしゃべり、カラオケ、書道、麻雀、体操など各自好きなことをして過ごす。タンパク質たっぷりランチを提供。月一回は専門家を招き、学習会を開催。



藤崎町

介護予防脳トレ教室や
生活支援

ボランティア団体「脳トレ倶楽部」による脳トレ教室の開催や、個人ボランティアによるゴミ出し・買い物代行などの家事援助サービスを実施。



Happy

連載

地元人がレポート!

地域から魅力発信! ハッピー♡リレー

vol.10 | 西北地域

書家&農家 長利 謙二さん
— 中泊町 —

地域の旬食材
レシピ付



「ストープ列車」長利さん乗車情報

五所川原市と中泊町を結ぶ津軽鉄道は、沿線に芦野公園の桜や太宰治生家「斜陽館」があり、毎年12月1日～3月31日まで運行するストープ列車は、特に人気で国内外から多くの観光客が訪れる。長利さんは、週に2、3日車内販売で乗務予定。年季の入った津軽弁と楽しい会話が評判。アテンダントからの依頼で勇ましく書いた「津軽半島」のTシャツは車内で購入可能。

Profile

書家&農家 長利 謙二さん

青森県書道連盟書道誌「東奥書道」小学2年生の部審査員。地域のために貢献したいと、町内会長や津軽鉄道ストープ列車での車内販売などなんでも笑顔で引き受ける。「ムスムスど仕事しても1日、笑って仕事しても1日。全て前向きに。バックのギアは、かえりませんでした(壊れてしまった)」がモットー。



五所川原市在住
ちえこ
松山 千恵子さん

5回の推薦者



主に津軽半島のPR活動をする、NPO法人津軽半島観光アテンダント推進協議会所属。県内外のイベントや津軽鉄道車内でのお客様対応は、全て好評の津軽弁。世界的に有名なストープ列車ではスルメを焼きつつ、観光案内をしている。

Healthy Point

- ブリはDHAやEPAが豊富!
- 水溶性のビタミンで疲労回復!
- 生姜やんにんにくで代謝アップ!



なぎさPoint
漬けダレが残ったら、ながいもなどを30分くらい漬けて、揚げて美味しくですよ。

彼は、実にも忙しな人であり、努力の人でもある。退職後は、米づくりも鍛錬のよう。きつ多の館で鑑賞できる。

かけは、米に付加価値をつけたいと応募した米のコンテスト。初挑戦は、あっさり落選。肥料、適期刈取りなど徹底的に研究した結果、「平成29年産あおもりの旨い米グランプリまさしくらの部」で準グランプリを獲得。ある時は、自身の田んぼで地元小学校の米づくり体験の先生。冬には、ストープ列車で車内販売。すべては、「地元を盛り上げたい」という熱い思いだと白い歯で笑う。

奥津軽の真夏の夜空に輝くかぐや姫が舞い降りた。今年129万人の人出となった五所川原立佞武多祭り。新作「かぐや」のまばゆい誕生は、特に注目を集めた。このかぐやの題字を書いたのが中泊町在住の長利謙二さん。

彼は、高校卒業後、家業の農家を継ぐかたわら会社員の道へ。先輩に文字の下手さを指摘され、上手になりたいと会社の書道会に入り朝晩練習を重ねた。毎月欠かさず書道誌へ作品を出品し、すでに30年以上。墨の匂いが癒しだという。以前、長利さんが頼まれて書いた小型ネプタの題字を目にし、心奪われた立佞武多師・齊藤忠大氏からの依頼で書き始めた大型立佞武多の題字は、平成25年「陰陽梵珠北斗星」、平成28年「歌舞伎創生出雲阿国」に続き、今年で3回目。毎回作品に合った字を考えに考へ「発勝負で巨大な立佞武多用の和紙に書き上げる。作品は3年間、祭り本番と立佞武多の館で鑑賞できる。

米づくり体験の先生も、書家の仕事も
地域のためなら、笑顔でオーライ!



中泊町立武田小学校の子ども達。初めての田んぼ体験に大喜び

松山さんが選ぶ地域の旬食材
寒ブリ



寒ブリのペッパー竜田揚げ

エネルギー:80kcal・塩分0.5g (1人分)

【材料:3~4人前】

ブリ	400g
片栗粉	適量
揚げ油	適量
[A]	
しょうが	1かけ(すりおろし)
にんにく	1片(すりおろし)
しょうゆ	50cc
酒・みりん	各大さじ2(30cc)
ブラックペッパー	小さじ1/2

【作り方】

- ブリは、2cm幅くらいの厚さに切る。(刺身を活用する場合はそのままOK)
- ボウルに[A]の材料を混ぜ合わせる。
- ①を②に入れて、20~30分漬けておく。たまに、かき混ぜると均等に味がつく。
- ③をザル上げて水分を切る。
- ④に片栗粉をまぶして、180℃の油で4~5分揚げて完成。



食育料理家
フードクリニック「なぎさカフェ」
オーナーシェフ

なぎさなおこ

八戸市在住。病気予防の食事をコンセプトにした旬のやさしいたっぷりの家庭料理が人気の「なぎさカフェ」を経営。食育や調理指導など講師として全国で活動中。

このレシピは
アメブロ☆幸せなぎさごはん
にも掲載しています。

レシピアレンジの詳細はFacebook
青森県広報広聴課



ブリの
野菜あんかけに!

竜田揚げが残ったら
冷蔵庫にある野菜でつくった
あんかけをかけるだけ
冷蔵保存で
3日間OK!

地域の外から継続的に関わる「関係人口」を増やしたい！



地域活力振興課
おのりか
小野 加織

「関係人口」という、地域を支える新たな形の「担い手」を増やす取り組みを担当しています。地方創生の最前線で、日々勉強中です。

皆さんは「関係人口」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。住居や仕事の拠点は都市部に置いたまま、外から本県に関わってくれる「観光以上、移住未満」の人たちです。

その人物像は幅広く、ふるさと納税や観光のリピーター、地域の伝統行事のため定期的に通う方など、様々な形があります。この中でも私たちは「地域の課題解決のために、地域外から継続的に関わってくださる方」を対象に、プロジェクト単位で呼び込む仕組みづくりを進めています。

通いながら地域課題に関わる

私たちは移住促進を目的に、首都圏などで移住相談会や交流会などを開催していますが、

最近は「簡単に移住できないが、別の形で青森に関わりたい」という相談も増えています。こうした「青森に通いながら地域課題に向き合ってくれる人たち」を獲得するため、企業や団体、コーディネート組織と連携し、地域の課題を解決するための取り組みを設計し、関心を持つ方に提示し、受け入れる仕組みづくりをしています。

「面白いところ」に人は集まる

地域課題解決というとなしそうですが、「りんご箱」の新たな活用法の提案や、後継者不足



平成30年12月の第3回青森発！ローカルプロジェクト市



令和元年6月の関係人口マッチングイベント出展

からりんごの木が切られる状況を改善するための提案の募集など、楽しみながら関われる内容となっています。都市部の人に「青森って面白そう」と思ってもらえることが大事なんです。

そこで県では、都市部の人と青森がつながるきっかけづくりのイベント「第4回 青森発！ローカルプロジェクト市」を12月7日(土)に東京・銀座で開催します。「青森に関わりたい」首都圏の家族や友人がいたら、ぜひこちらをご紹介ください。旬のプロジェクトを用意してお待ちしています！

詳しくは、[第4回 青森発！ローカルプロジェクト市](#)



地域活力振興課 移住・交流推進グループ ☎017-734-9174

青森県職員の給与と職員数のあらまし

県では、人事行政を運営するに当たっての公正性・透明性を高めるため、人事行政の概要を公表しています。公表内容の中から、県職員の給与と職員数のあらましをお知らせします。

給与

職員の給与は、県内民間事業所の給与実態などの調査結果に基づく県人事委員会の勧告を受け、国や他の地方公共団体との均衡を考慮しながら、県議会の審議を経て、条例で定められています。

■ 職員の初任給与と平均給料月額

(平成31年4月1日現在)

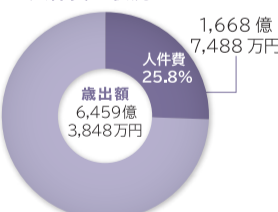
区分	学歴	初任給月額	平均給料月額	平均年齢
一般行政職	大学卒	180,700円	316,500円	42.9歳
	高校卒	148,600円		
警察職	大学卒	202,000円	302,500円	38.4歳
	高校卒	171,200円		
高校教育職	大学卒	202,300円	372,000円	46.0歳
小・中教育職	大学卒	202,300円	382,400円	47.5歳
技能労務職	高校卒	146,000円	301,100円	51.0歳

■ 知事や県議会議長などの給料・報酬月額の状況

区分	給料・報酬の月額	
知事	1,260,000円	
副知事	970,000円	
県議会	議長	910,000円
	副議長	810,000円
	議員	780,000円

(平成31年4月1日現在)

■ 人件費の状況



(平成30年度普通会計決算)

職員数

■ 部門別の職員数の状況

(各年4月1日現在)

区分	職員数		
	平成30年	平成31年	増減
一般行政部門	3,830人	3,783人	▲47人
教育部門	11,452人	11,278人	▲174人
警察部門	2,681人	2,694人	13人
公営企業等会計部門	1,246人	1,246人	0人
合計	19,209人	19,001人	▲208人

「人事行政の概要」は、人事課、県政情報センター、各合同庁舎の地域住民情報コーナーのほか、ホームページでもご覧いただけます。

詳しくは、県庁 HP [人事行政](#)



人事課 ☎017-734-9047

「青森で就職したい」を応援します！

県公式就活アプリ「シューカツアオモリ」ができました！

青森県内にはどんな企業があるの？ 就活イベントやってるの？ 助成制度ってないのかな？ そんな疑問をこのアプリで解決します！ 青森で就活するあなたにお役立ち情報をお届けします！

機能

- ・就活イベントカレンダー
- ・県内ニュース
- ・企業情報
- ・県内の求人情報
- ・クーポン

※ダウンロード無料、利用登録不要です。ダウンロードはこちらから→

詳しくは、県庁 HP [シューカツアオモリ](#)



労政・能力開発課 就業支援グループ ☎017-734-9398



保護者・教師のための県内企業説明会を開催します!!

採用責任者等から直接企業情報を聞くことができる貴重な機会です。高校生の保護者を主な対象としますが、それ以外の方の参加も歓迎します！ぜひご参加ください！

- 【青森】12月15日(日) 13:00~16:30 ホテル青森
- 【弘前】1月13日(月祝) 13:00~16:30 アートホテル弘前シティ
- 【八戸】1月26日(日) 13:00~16:30 八戸プラザホテルアーバンホール

詳しくは、県庁 HP [保護者 県内企業説明会](#)



労政・能力開発課 雇用促進グループ ☎017-734-9401

持続可能な未来を創るために「未来のAomoriシンポジウム」を開催します！

環境保全活動とSDGs(持続可能な開発目標)をテーマに、基調講演、パネルディスカッション、取組事例の紹介等を行います。



■日時/1月14日(火) 13:00~15:30

■場所/ラ・プラス青い森「カメラア」(青森市中央1-11-18)

■主催/青森県、一般財団法人自治総合センター

詳しくは、県庁 HP [もったいない・あおもり県民運動推進大会](#)



環境政策課 ☎017-734-9241



保健師さんが語る「大切なこと」

青森県知事 三村 申吾

「青森県型地域共生社会」。思いっきり簡略化すれば、「住み慣れた集落や地域社会で、どう日常的にいのちと暮らしを持続させていけるようになるか」という事になるだろうか。

背景として、迫りくる人口減少下での高齢化率の急上昇という現実がある。

そして、そのあまりの急激さに市町村の行政サービスシステムが、これも背景にあるあらゆる分野での人員不足の中で、対応しきれないのでは、との懸念が増大している。

しかし、私たちに、現在よりもっと厳しい社会経済状況や各種インフラ、十分ではない社会保障の中で、地域社会という現場に立脚し、いのちと暮らしを見つめ、守るために頑張ってきたプロフェッショナルたちがいる。

それは行政保健師の方々である。

かつて、県職員ではあるが、市町村へ駐在、派遣され、地域に密着していた方がいた。

その方々、保健婦(当時の名称)さんたちは、年間300件の家庭訪問を通して、健康づくりや衛生指導、子育て・高齢者・障害者支援等々、何でもこなしながら、自らのスキルを高めるだけでなく、地域の社会状況も含めて見極める「地域診断」の技量を高めていった。

私は町長経験者として、現場における保健師の方々の堅実な努力の積み重ねと献身に常々頭が下がる思いであり、本当に頼りにしてきた。

「故き(原点)を温ねて新しきを知る」とのことわざがあるが、「青森県型地域共生社会」をテーマとするにあたって、地域を見つめ、地域と共に生きてきた保健師さん方に、大切とすべきことは何かを率直に尋ねた。

保健師さん曰く、

— 現在、様々な制度が細分化されすぎ、包括的な支援ができる仕組みになっていない。昔は少し「おせっかい」が重なっていた。

私たち保健師も、福祉も保険も関係なく、人々が地域の中で生き生きと暮らして欲しいとの思いで住民に関わっていた。

地域共生社会の主役は「地域住民」である。自分たちが暮らしやすい地域をつくるため、「自分が誰かのために何ができるのか、互いにできることは何か」を考え、「互助」の力を高めることが必要である。

そして、この「互助」の力を最大限に生かすコーディネートをする「ひと」が重要である。

また、「連携」ではなく、もう一步踏み出す「協働」という意識、「この町を何とかしたい」という熱い思いも大事。

「ひと」づくり、「つながり」づくりが大事 —

「大切なこと」をシンプルに教えていただいたと思っている。

心から感謝するだけでなく、この素晴らしきパートナーたちの力を十二分にいただいて、「ゆりかご」である集落や地域社会が持続可能となるシステムづくりにチャレンジしたい。

青森・ソウル線で海外へ!

青森空港国際化促進協議会では、韓国観光公社と連携し、パスポートを取得・更新して青森・ソウル線を利用する方を対象として、旅行料金が5,000円引きとなる「パスポート取得応援キャンペーン」を実施中です。青森・ソウル線を利用し、アジアのハブ空港である仁川空港で乗り継いで世界各地へ旅行する場合も対象となります。海外旅行に大変便利な青森・ソウル線をぜひご利用ください。

曜日	便名	青森空港発	仁川空港着	便名	仁川空港発	青森空港着
日・水・金	KE768	13:55	16:55	KE767	10:30	12:50

詳しくは、県庁HP

交通政策課 ☎017-734-9153

農林業センサス 経営体調査を実施します!

農林業センサスは、我が国の農林業の生産構造や就業構造、農山村地域における土地資源など農林業・農山村の基本構造の実態とその変化を明らかにし、農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料となる統計を作成し、提供することを目的に、5年ごとに行う調査です。

このうち農林業経営体調査は、一定規模以上の農林産物の生産を行うか、又は委託を受けて農林業作業を行う事業者を対象とし、12月中旬から翌年2月末まで調査員による調査票の配布と回収を行います。皆さまのご理解・ご協力をお願いします。



「つっちー」

詳しくは、県庁HP 統計分析課 ☎017-734-9169

防ごう! 油流出事故

冬期間は油の流出事故が多発します。河川に油が流出すると、周辺環境に多大な影響を及ぼすだけでなく、油の回収・オイルフェンスの設置等の費用を**原因者が負担**することとなります。

油流出事故の多くは、うっかりミスや管理不備が原因ですので、少しの注意で防げるものです。ご家庭のホームタンクの定期点検等を怠らないようにしましょう。

また、油流出事故を発見した場合は、すぐに各市町村や最寄りの消防署、または国や県の機関にご連絡ください。

詳しくは、県庁HP 河川砂防課 ☎017-734-9662

企画展

「縄文遺跡群と県立郷土館—発掘調査の軌跡—」

県立郷土館では、青森県の先史文化解明のため、これまで県内21か所で発掘調査を行ってきました。その中には世界遺産登録候補である「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する遺跡も含まれています。本展は当館発掘調査成果を一堂に展示・公開する初企画です。

初公開資料多数。出土品の魅力をお楽しみください。

■期間: 12月7日(土)~1月30日(木) 9:00~17:00 ※12/29~1/3は休館

■料金: 一般310円(1月は250円)、高校生150円(1月は120円)、中学生以下は無料

詳しくは、 県立郷土館 ☎017-777-1585



早期 尖底深鉢形土器
東通村下田代納屋遺跡

みなさんと県庁を結ぶ
県政インフォメーション

テレビ ■RAB[LINK/青森県](30秒スポット) ■RAB[大好き、青森県。](第三日曜日)17:00~17:15[放送週が変更になることがあります] ■ATV[みんなの県庁!](土)16:55~17:00 ■ABA[メッセージ](土)9:30~9:35
ラジオ ■RAB[青森県広報タイム](月)~(木)7:30~7:35 ■エフエム青森「あomorいふあん」(月)~(金)16:55~17:00 ■エフエム青森「申吾のほっとチャンネル」(第一日曜日)7:00~7:30
新聞 ■「広報あomorいけん」(毎月1日・16日) 東奥日報・デーリー東北・陸奥新報
HP/Twitter ■県のホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/> ■青森県庁Twitterアカウント (@AomoriPref)

編集 青森県広報広聴課 〒030-8570 青森市長島1-1-1 ☎017-734-9137 ※「県民だよりあomorい」は偶数月発行です。※点字版・録音版をご希望の方は広報広聴課までお知らせください。
発行 ※今後の広報紙制作の参考とするため、「県民だよりあomorい」に関する皆さまのご意見・ご感想を郵送でお寄せください。この印刷物は520,000部作成し、印刷経費は1部当たり9.4円です。